



## トピックス2012の発行にあたり

—10年後のビジョンを見据えて—



学長 長谷川 彰

本誌は、平成24年度に新潟工科大学が取り組んだ事業や開催した行事、さらには学生や教員の活動実績などを幅広くまとめた、まさに「新潟工科大学の1年間がわかる」一冊となっております。

新潟工科大学は、平成26年に創立20周年を迎えます。これまで本学では、平成20年に中期計画を定め、各種事業に取り組んでまいりました。平成24年はこの中期計画の最終年度であり、これまでの5年間の活動を総括し、その成果と課題を整理するとともに、次なる施策に向けて検討を重ねてまいりました。

平成25年度を初年度とする第2期中期計画では、開学時の大学の理念・建学の精神に立ち返り、10年後のあるべき姿を次のとおり定めております。

ふるさと“新潟”を愛し、ふるさとの発展のために高い志を持つ学生に、“ものづくり”の知識と技術のみならず、人間としての総合的能力を身につけた技術者の育成に努める。

人材育成により地域産業界の発展に貢献すると共に、産官学及び地域社会との連携を通して、地域課題の解決と生き生きとした地域社会の実現・継続に寄与する。

このビジョンを実現させるため、教育や研究、学生支援、社会貢献、国際交流など10の項目を基本目標とし、各目標を達成するための具体的施策をまとめ上げ、年度計画を策定し、着実に実行に移してまいります。

本誌で取り上げた各トピックは、目標達成のための一翼を担うものであります。本誌をご覧になれば、新潟工科大学をより身近に感じていただけるものと確信しております。

今後も本学は、地元柏崎・刈羽をはじめ、新潟県及び隣接する県外地域の拠点大学としての自信と誇りを持って「最高の人材育成で社会に貢献する大学」を目指してまいります。



マスコット  
キャラクター  
つくっ太郎

1	教育	.....P2
2	学生活動	.....P4
3	地域支援	.....P7
4	研究	.....P8
5	国際交流	.....P9
6	就職支援	.....P10
7	産学交流	.....P12

## 産学協働による学生の社会的・職業的自立を促す教育

本学は、平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受けました。平成26年度までの3年間、新潟県内外の16大学と連携を図りながら、学生の社会的・職業的自立を図るために、産業界のニーズに応じた人材育成に向けた、教育改善・充実の事業に取り組みます。

具体的には、以下のとおり専門教育、教養教育、キャリア教育を実践型カリキュラムで体系的に行い、技術者として就業するために必要な「専門力」と「人間力」を育成します。

### 実践型カリキュラム（工学プロジェクト、PBL 実習など）

工学の専門教育

教養教育

キャリア教育

新潟工科大学が育成を目指すのは、  
専門力だけでなく  
**人間力**をも身に付け、  
実践的に活躍できる  
**技術者**です。

**挑戦力**  
チャレンジ

**コミュニケーション力**  
チームワーク



**創造力**  
シンキング

### 工学プロジェクト(学内企業実習)

企業から講師を迎え、学生が1日社員としてグループワークを行います。企業から提示された課題をグループで解決するもので、平成24年度は9月12日(水)に実施し、前年の3倍を超える59名が参加しました。

参加した企業は業種の異なる4社で、学生は各社3チームに分かれて課題に取り組み、チームごとに成果を発表しました。その後、各講師の講評があり、終了となりました。



①佐藤食品工業株式会社 「新しいニーズの包装餅の提案」



②阿部建設株式会社 「眠っている能力を覚醒する『ブランディング』」



③三幸製菓株式会社 「スーパーへの新商品・売り場レイアウトの提案」



④株式会社タカヨシ 「新潟工科大学の魅力を高校生に伝えよう」

### PBL実習 PBL…Project Based Learning (課題解決型学習)の略

学生に課題を提供し、学生がチームを組んで、主体的・実践的に課題解決に取り組みます。これにより、解決手法、技法、プレゼンテーション能力等を学習します。

平成24年度は以下の9テーマに取り組み、3月1日(金)に成果発表会を行いました。

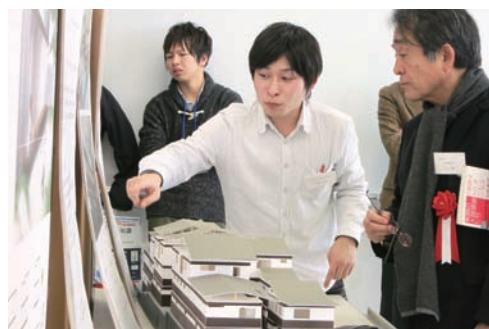
- ①自律型歩行ロボットを使用したロボットコンペティションの企画
- ②「建築環境・設備」オーディオブックの制作
- ③柏崎市の地球温暖化対策実行計画策定における市民等意識調査結果の分析及び意見提案
- ④省エネ対策をキーワードにした商品の企画
- ⑤高校生向けの風洞実験装置見学・体験プログラムの開発
- ⑥Androidタブレット端末を活用したアプリケーションの開発
- ⑦ニコニコ通り商店街の空き店舗をリノベーション
- ⑧3次元ライフゲームを用いたLED電飾の製作
- ⑨PBLツアーの企画立案



## 設計課題コンクールで入賞

建築学科2年の小池幸平さんが、2月23日(土)に行われた社団法人日本建築家協会（JIA）の「学生課題設計コンクール」2013新潟県内発表会の大学・専門学校の部で「金賞」を受賞しました。続いて3月2日(土)に行われた「第7回 JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール2013」では、審査員特別賞「JIA新潟クラブ賞」を受賞しました。

小池さんの作品は、柏崎市えんま通り商店街の中の一区画を対象とした、町屋形式の空間をうまく活かした提案であり、空間構成の妙や正確なスケール感覚に基づく丁寧な設計が高い評価を得ました。



## 大学院生が学会賞受賞

博士前期（修士）課程高度生産システム工学専攻2年の藤木道さん（指導教員：山崎泰広教授）が、日本材料学会北陸信越支部奨学賞を受賞しました。取り組んできた研究が発展性に富む業績と評価され、今回の受賞となりました。

◇受賞研究テーマ：熱機械疲労下における耐熱合金のき裂進展機構の検討



博士前期（修士）課程生産開発工学専攻1年の今井裕貴さん（指導教員：角山正博教授）が、10月13日(土)に新潟大学で開催された電子情報通信学会信越支部大会において、学生奨励賞を受賞しました。

◇受賞研究テーマ：ファジィ測度とファジィ積分を用いた  
回転機器故障診断システムの精度向上

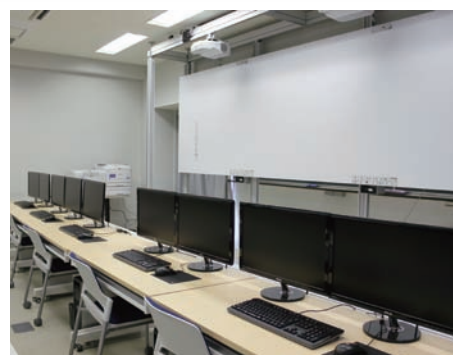


## 高度シミュレーション技術活用型“いいものづくり人材”の育成

本事業は、高精度なシミュレーションシステムを活用し、ものづくりの高効率・高品質・高信頼性に貢献できる人材を育成するもので、平成24年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択され、高性能サーバ、クライアント（高性能パソコン）、シミュレーションソフトを整備しました。導入したソフトは、自動車、航空、防衛、化学、家電など様々な産業の先進企業で日常的に使用されており、先進性と信頼性を兼ね備えた、高度なシミュレーションが可能となります。

シミュレーションを活用するための基礎学力を育成するため、オープンエデュケーションシステムとしてタブレット端末等を導入し、主体的に学べる環境を整えました。

このような大規模なシミュレーションシステムは、教育用としては国内大学において類を見ない、最新鋭の設備となっています。



高度シミュレーション実習室

## 原子力人材育成プログラム

本学は、平成24年度経済産業省「原子力人材育成プログラム補助事業」の採択を受け、海外インターンシップと合わせて、TiPEEZシステム\*を活用した原子力防災のための人材育成カリキュラムを作成しています。

\*TiPEEZシステム：原子力発電所周辺地域を考慮した津波・地震に対する原子力防災システム“Tsunami and Post Earthquake consideration in the External Zone”の略

# 学生活動

## まちかど研究室 (通称“まち研”)



平成24年度柏崎市との連携推進事業の一環で、市内中心部に人通りと活力を取り戻すことを目的に、新潟産業大学と本学が共同で空き店舗の計画、運営を行うものです。

本学からは、建築学科の長聡子准教授の研究室に所属する学生のほか、前述のPBL実習を履修した他学科の学生など、計12名が参加しました。

平成24年度にまち研が行った主な事業は次のとおりです。

### 柏崎最高プロジェクト

柏崎をアピールする60秒以内の動画を公募。入賞作品はYouTube等で配信しました。第二回は動画に加え、写真、絵画、川柳も合わせて募集し、小学生や高校生からも多くの作品が寄せられました。

### はろー!マーケット

市民が売りたいもの、買いたいものを自由に取引できる場を提供しました。

### 託児所を併設したカフェを運営

10月20日(土)、21日(日)に柏崎市市民プラザ前広場で行われた「かしわざき絶品!グルメフェスタ2012」においてカフェを運営し、多くの子ども連れなどで盛況となりました。

### インタビュープロジェクト

商店街の店主への聞き取りや交流会を通じ、学生に対する期待を肌で感じました。その成果として、イベントで使用する缶バッジのデザイン依頼がありました。

まち研で本学の中心となった、建築学科4年生の大川真悟さん(平成25年3月卒業。柏崎市内の建設会社に就職)は、まち研の1年間を振り返り、「組織運営の難しさを痛感した。事業全体では80点だが、個人としては満足していない」と辛口の評価をしていました。

平成25年度は、まち研の活動をさらにPRするとともに、市民が気軽に立ち寄ることができる駄菓子屋の運営や、周辺の小学校等を巻き込んでの活動を推進していきます。

## 社会人基礎力育成グランプリ2013で奨励賞受賞

まち研の学生チームが、11月14日(水)に開催された「社会人基礎力育成グランプリ2013関東地区予選大会」(日本経済新聞社主催、経済産業省共催)に出場し、奨励賞を受賞しました。

発表タイトルは「新潟工科大学 × 新潟産業大学 × 柏崎市連携事業『まちかど研究室』」で、まち研の活動について持ち時間をいっぱいを使って発表しました。残念ながら決勝大会には進出できませんでしたが、携わった学生の能力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」、「大学で学ぶ一般教養や専門知識」)がどのように伸びたかを伝えられた良い発表となりました。



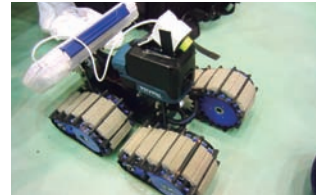
## 学生団体が奨励賞を受賞

「ロボカップジャパンオープン2012大阪」のレスキュー実機リーグにおいて、本学のNIIT-BLUEがIncentive Award（奨励賞）を受賞しました。

NIIT-BLUEとは、機械制御システム工学科のフィールドロボット工学研究室（指導教員：大金一二准教授）とロボット研究部の連合チームであり、大会は5月3日（木）～5日（土）に大阪市の大阪工業大学で開催されました。

レスキュー実機リーグは、被災現場をモデルとしたフィールド内にいる被災者の情報（状態・場所など）を、遠隔操縦または完全自律型のロボットを使用して調査し、その精度を競う競技でした。

同チームは、6月18日（月）～24日（日）にメキシコで開催された「ロボカップ世界大会」にも出場しました。



## 全日本学生フォーミュラ大会で大健闘

「第10回 学生フォーミュラ大会」（主催：公益社団法人自動車技術会）のEVプレ大会において、本学機械制御システム工学科の機械力学研究室（指導教員：門松晃司教授）のチームが、初参戦で総合3位となりました。大会は9月3日（月）～7日（金）に静岡県袋井市の小笠山総合運動公園エコパで開催されました。

EVプレ大会では、車検、静的審査（コスト、デザイン、プレゼンテーション）、動的審査（加速性能、コーナリング性能、コース走行性能、走行性能・耐久性、電力消費量）が競われました。

動的審査の走行性能・耐久性を競う「エンデュランス」で、同チームの電気システムにエラーが発生し、惜しくもリタイアとなりましたが、コース走行性能を競う「オートクロス」では2位と健闘したことが好成績につながりました。

大会期間中は国内の大学をはじめ、中国の哈爾濱工業大学<sup>ハルビン</sup>とも技術交流を深めました。



## 環境推進学生会による美化活動

環境推進学生会主催による「第3回 CAMPUS CLEAN」及び「THANKS CLEAN」を、8月10日（金）に実施しました。集まった学生と職員が、ゴミや吸い殻、空き缶の回収など、構内及び大学周辺を清掃し、回収したゴミを全員で分別するとともに、後日、どの場所にどんなゴミが落ちていたのかを傾向分析しました。

このほかにも、各団体が主催する海岸清掃（ビーチクリーン）にも積極的に参加しました。



## 植樹会に参加

「グリーンサークルにいがたの森づくり」植樹会が10月20日（土）、阿賀野市保田赤松山森林公園で行われ、本学から学生、職員合わせて4名が参加しました。

「グリーンサークルにいがた」はテレビ新潟（TeNY）が主催する地球温暖化防止キャンペーンで、また、植樹会には新潟県、阿賀野市のほか、協賛企業の関係者など約60名が参加し「にいがた千年松」を植えました。



## 第17回工科大祭

6月2日(土)、天候にも恵まれ約2,300名が第17回工科大祭に会場し、大盛況となりました。

青少年のための科学の祭典2012柏崎刈羽大会と同時開催となったこの日、中庭コモンプラザには学生や教職員による模擬店のほか、柏崎総合高校、新潟産業大学学友会の皆さんからの出店もあり、大いに賑わいました。飲食系の模擬店のほか、大学紹介の一つとして各学科の作品展示や大ビンゴ大会、スタンプラリーなどが行われました。

工科大祭の最後は、鹿児島県奄美大島出身の2人組ユニット「カサリンチュ」のライブで盛り上がりました。



## 青少年のための科学の祭典

本学では、子どもたちが科学の面白さを体験することにより、「工学」や「ものづくり」への関心を深めてもらおうと、青少年のための科学の祭典に積極的に取り組んでいます。

柏崎市教育委員会と本学の共催により、柏崎刈羽大会を年2回、本学を会場に開催しています。6月は工科大祭と同時開催し、毎年多くの親子連れが来場します。

このほか、新潟県大会（主催：財団法人日本科学技術振興財団 科学技術館ほか）にも講師を派遣し、科学の普及に努めています。



## 学友会主催スポーツ大会

平成24年度は6月、10月、1月の3回、バレーボールやフットサルで熱戦を繰り広げました。参加者は延べ200名で、学生のほか職員も加わり、日頃の運動不足を解消していました。



## 24時間テレビに参加

日本テレビの24時間テレビが放送された8月25日(土)、26日(日)の両日、学生、教職員による「エコ」に関する実験を行いました。

イベント会場の万代シティ特設ブース（新潟市中央区）では、子どもたちがスポーツ飲料や鉛筆の芯など、身近なもので燃料電池を作成してLED電球を点灯させる実験を体験しました。手回し発電機を使った実験では、仕事量によって発電量が決まることを体得し、節電の大切さを理解しました。このほか、本学の環境活動の取組を紹介しました。



# 地域支援

## 先端科学技術体験講座(中学校理科)

本事業は、新潟県内の中学校、高等学校の理科教員を対象に県立教育センターが主催するもので、理科の先端的な科学技術に関する観察、実験、実習を大学と連携して実施し、その教材開発により指導力の向上を図ることを目的としています。本学は、平成20年度から中学校理科分野を担当しています。

平成24年度は6月22日(金)と10月24日(水)の2回、環境科学科の小野寺正幸准教授が講師を務めました。

6月には「地球環境と環境測定方法」の講義と河川・湖沼・池の水の測定を、10月には分子模型の製作と研修内容の教材化と学習指導への活用について、協議を行いました。



## 中学生サッカースキルアップ講座

平成24年度公開講座・教養講座「中学生サッカースキルアップ講座」を7月30日(月)～8月3日(金)の5回にわたり、本学のグラウンドで開講しました。

講師は教養科の小泉昌幸教授が務め、連日の猛暑の中、受講者は技術向上を目指し、心地よい汗を流していました。

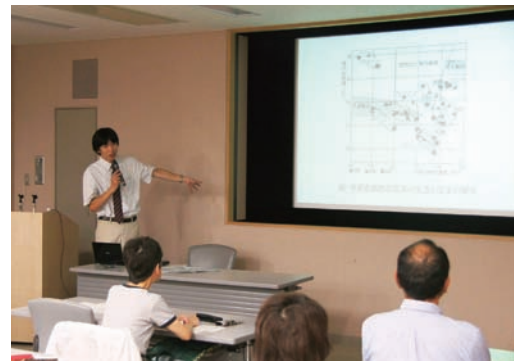


## かしわざき市民大学

平成24年度公開講座・技術講座は、かしわざき市民大学講座として「快適で安全な地域の“住まい”づくり」を10月1日(月)～29日(月)の4回にわたり、柏崎市市民プラザを会場に開講しました。同講座では本学建築学科の教員が講師となり、構造や環境・防災など、柏崎市の気候や特徴などを考えた住まいづくりについての話題が示されました。

### 講座概要

- 第1回「環境と住まい」 富永 禎秀 教授
- 第2回「高齢者の住まい」 黒木 宏一 准教授
- 第3回「地震と住まい」 田村 良一 教授
- 第4回「雪と住まい」 深澤 大輔 教授



## こども工業まつり

柏崎青年工業クラブ主催の「こども工業まつり」を8月18日(土)、19日(日)の両日、本学及び隣接するものづくり活性化センターで開催しました。本イベントは、同クラブの40周年記念事業として「次世代の地域を担うこどもたちに、ものづくりの魅力を感じてもらうため」に開催したもので、各種工作コーナー、働く車の展示、遊具コーナー、企業展示コーナー等が設置され、模擬授業やエアトレイン運行、スタンプラリーなどが行われました。



## 原子力耐震・構造研究センター

- 原子力施設の耐震・構造等の安全性に関する研究施設として、平成22年11月に建設されました。
- 東京電力株式会社、独立行政法人原子力安全基盤機構（JNES）、本学が連携しながら、研究成果の集積と国内外への発信及び人材の育成・輩出に取り組んでいます。
- 本研究センターは、経済産業省の「平成21年度産業技術研究開発施設整備費補助金」の採択を受け、設置されました。

### 本研究センターでの共同研究(カッコ内は担当教員)

- 次世代原子炉構造材料部材の高温疲労き裂進展挙動に及ぼす過大負荷の影響（機械制御システム工学科 山崎泰広教授）
- 原子力発電所機器・配管系設計指針の高度化に関する基礎的研究（機械制御システム工学科 門松晃司教授）
- 原子力リスク情報の分かりやすい伝達に資する情報伝達モデル「柏崎・刈羽モデル」の拡張に関する研究（情報電子工学科 佐藤栄一教授）
- き裂を有する配管の地震時き裂進展評価手法の高度化に関する研究（機械制御システム工学科 山崎泰広教授）
- 3次元免震床の性能確認に関する研究（建築学科 田村良一教授）



低サイクル疲労試験機



リスク情報伝達モデルの研究

## 国際ワークショップと市民公開講座及び施設見学会

11月7日(水)～9日(金)、JNES、国際原子力機関（IAEA）、経済協力開発機構（OECD）の共催による「第2回大深度地震動観測とその活用に関する国際ワークショップ」を本学で開催し、海外からの14名を含む延べ79名が参加しました。大深度での地震動観測の必要性や有効性及び観測技術の今後の課題などについて3つの技術セッションを開催し、議論を交わしました。

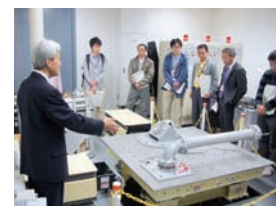
11月10日(土)には、国際ワークショップに出席していた海外の研究者が、各々の研究成果を市民向けに発表するとともに、原子力耐震・構造研究センターで行われている研究施設と研究テーマを紹介しました。市民や学生のほか、防災エンジニアコースを有する柏崎工業高校の生徒など、約100名が参加しました。



国際ワークショップ



市民公開講座



施設見学会

## IAEA特別拠出金事業に参画

本学は、IAEA 国際耐震安全センターの特別拠出金事業（ISSC-EBP）に参画し、国際的な貢献を果たすことを表明しました。

1月28日(月)～30日(水)にオーストリアのウィーンで開催された2013年拠出国会議において、情報電子工学科の佐藤栄一教授が、本学の紹介や参画の経緯、TiPEEZシステムを地域原子力災害対策に適用する計画等のプレゼンテーションを行いました。



IAEA/ISSC サマダーセンター長（左）と佐藤教授

## 滋養・薬効研究センターを開設

11月12日(月)、株式会社ブルボン、柏崎市及び柏崎商工会議所の関係者を来賓とし、「滋養・薬効研究センター」の開所式を行いました。

同センターは、本学環境科学科の学生が、実験動物による食品の評価技術や専門知識の習得を図るために開設した施設です。開設にあたり、株式会社ブルボンから多額の研究設備の寄付をいただきました。

開所式では同社の吉田康代表取締役社長に対し、長谷川彰学長から感謝状が贈呈されました。



## 富永教授が日本風工学会ベストペーパー賞受賞

建築学科の富永禎秀教授が、平成23年度「日本風工学会 ベストペーパー賞」を受賞し、5月30日(水)に開催された「一般社団法人日本風工学会社員総会」において表彰されました。研究内容の完成度が高く、氷雪災害対策への活用が期待できると高く評価されたものです。



## “脊椎の評価システム”研究プロジェクトが採択

財団法人にいがた産業創造機構の産官学連携による「市場開拓技術構築事業」として、本学が実施中核機関となって民間企業等と連携して申請した「新潟発・革新的脊椎診断／評価システムとインプラントの開発」が採択されました。

本事業は、平成24年度からの3年間、新潟工科大学を中心に、新潟大学や医療機関、医療機器メーカーと連携しながら研究を進めます。本学からは原利昭副学長のほか、機械制御システム工学科の村山洋之介教授、寺島正二郎教授が参加しています。



原利昭副学長

## 国際交流

### モンゴル科学技術大学と学術交流に関する覚書を締結

モンゴル科学技術大学の学長以下3名が、学術交流に関する覚書への調印のため訪日し、9月14日(金)に本学で調印式を行いました。

両大学は2010年8月に学術交流に関する協定を締結しており、今回の調印により、留学生の受け入れ、共同研究の実施、学術研究者の派遣など、より活発な交流の促進が確認されました。

また、12月13日(木)には、モンゴルから科学技術分野での交流を目的に来日した、バタスーリ氏（モンゴル金属・機械工業ナショナル協会副会長）を団長とする大学・企業関係の専門技術者団が来学しました。



### エネルギーシンポジウム～再生可能エネルギーの活用～

9月6日(木)、ドイツのマグデブルグ・オットーフォンゲーリック大学から学生ら20名が来学し、本学主催のエネルギーシンポジウムに参加しました。また、一般公開のシンポジウムでは、本学教職員を含む130名が参加しました。

この催しは、新潟大学工学部主催の2012年マグデブルグ・オットーフォンゲーリック大学サマースクールの機会を捉えて、財団法人佐々木環境技術振興財団の支援により開催しました。



# 就職支援

## 各種就職ガイダンスを実施

学部3年生（大学院修士1年生）から、本格的な就職ガイダンスが始まります。自己分析やマナーのガイダンスに加え、企業の社長や人事担当者を招いて行う業界研究や、内定を得た上級生の報告会、さらにはOB・OGとの懇談会などを実施しています。このほか、新潟日報社の記者を講師として、新聞を活用した就活のポイントや小論文対策も学びます。



## キャリアアドバイザー及び求人開拓員を配置

本学では、専門的な立場から個別に就職相談や模擬面接、履歴書・エントリーシート等の添削指導などを行う、キャリアアドバイザーを配置しています。ハローワーク柏崎とも連携し、学内で就職相談等の対応を行っています。

一方、求人開拓員であるキャリア・アドミニストレーターは、柏崎市内の企業に対して求人開拓を行い、地元での就職を希望する学生を支援しています。



## 卒業生との懇談会

在学生に対する就職支援の一環として、9～10月にかけて各学科で卒業生の社会人をパネリストに迎え、懇談会を開催しています。

卒業生からは「現在の仕事の状況」、「就職活動の体験談や業界・企業を選ぶポイント」、「入社後も仕事をするうえでの勉強が必要」などの説明があり、「大学でしっかりと基礎的な知識や技能を身につけることが大切」、「新聞を読んで社会の動向を把握することが必要」などのアドバイスがありました。3、4年生もパネリストとして登壇し、「就職活動に向けての心構え」や「インターンシップへの取り組み方」、「早期に筆記試験対策を行うこと」等について1、2年生にアドバイスしました。

参加した在学生からは「実際の会社の雰囲気や仕事の様子などを感じることができた」、「求人票にはない会社の現状が理解できた」などの感想があり、卒業生と在学生が情報交換する大変有意義な懇談会となりました。



## 企業技術・要素ガイダンス

学生へのキャリア支援の試みとして、低学年からの職業観育成と企業理解を深めることを目的に、全学年を対象にこのガイダンスを毎年開催しています。平成24年度は11月21日(水)に開催し、新潟県内外の製造業、建設業、情報通信業等の39社が参加しました。

学生は各企業のブースを訪問して製品や展示パネルを見ながら説明を聴き、各社の高い技術力を目の当たりにしました。一方、製品の仕組みなどを企業の技術者に積極的に質問し、技術力やものづくりの工程を学びました。

学生からは「電気系の製造加工技術の内容が興味深かった」、「自分の勉強している分野とは違った様々な業種の説明を聴くことができ、将来自分のやりたいことが具体的になった」などの感想があり、学生が業界や企業の研究を行う大変貴重なガイダンスとなりました。



## 東京へ就活バス運行

就職活動がスタートして1週間後の12月8日(土)、就職イベント「マイナビ就職 EXPO」に参加する学生のために貸切バスを運行しました。東京都江東区の東京ビッグサイトで開催されたイベントには、学部3年生と大学院修士1年生の合計26名が参加しました。

この取組は、全国の様々な業界や企業の動向を知ってもらい、学生が幅広い視野を持って就職活動ができるように実施したものです。参加学生からは「就職先として興味がある企業を見つけられたので、参加してよかった」、「各企業だけでなく、業界の詳しい説明を聞くことができ、業界研究に繋がった」などの感想がありました。



## 公務員ガイダンス

1月30日(水)、都道府県、市町村職員、教員、自衛官など、公務員志望の学生を対象にした公務員ガイダンスを実施しました。公務員としての心構えやそれぞれの仕事内容の説明のほか、採用状況や応募状況、試験対策などについて解説しました。

本学では今後、公務員試験対策講座を開催する予定です。



## 合同会社説明会



平成26年3月卒業・修了予定学生を対象とした「学内合同会社説明会」を、2月18日(月)、19日(火)の両日、本学講堂で開催しました。新潟工科大学産学交流会会員企業や新潟県内企業をはじめ、北陸信越地方、東北地方、関東地方などから、昨年の参加企業を大きく上回る136社の企業が参加しました。

学生は、建設業、製造業、情報通信業、鉄道業など様々な業種の企業の事業内容や採用日程などの話を聞くことができ、今後の就職活動に向けて大変有意義な説明会となりました。

参加した学生からは、「企業の理念や会社の具体的な取り組みが理解できた」、「他大学も参加する説明会と違い、本学学生を積極的に採用する予定の企業説明会のため、大変有意義だった」、「初めて知る企業でも今回説明を聞くことによって様々な情報を得ることができた」などの感想がありました。

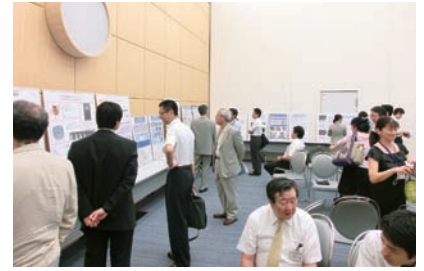
また、参加企業からは、「学生は積極的に質問していて、就職活動に意欲的であると感じた」、「11月の企業技術・要素ガイダンスの時にも3年生に事業内容を説明したが、その時よりも就職に対する心構えが向上していて印象が良かった」などの感想が寄せられました。



# 産学交流

## 技術シーズプレゼンテーションin柏崎

9月21日(金)に柏崎市市民プラザにおいて、企業や研究機関を対象に「2012技術シーズプレゼンテーション in 柏崎」を開催しました。本学、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校が主催し、「ものづくり」と「安全：健康・環境」をテーマに12件の研究発表を行いました。



## 先進企業見学会

11月15日(木)、16日(金)の両日、新潟工科大学産学交流会会員企業を対象にした先進企業見学会を実施し、22名が参加しました。平成24年度は、航空機産業に参入している、「株式会社水野鉄工所」(岐阜県瑞穂市)及び「東明工業株式会社」(愛知県知多市)の製造業2社を訪問しました。



## 地域別産学交流会

新潟工科大学地域産学交流センターは、各地域の産学交流会会員企業との懇談会を開催しています。各地域に大学スタッフが出向き、少人数形式で懇談会を開催し、大学と会員企業との情報交換や会員相互の交流促進及び大学への要望を確認することを目的として、毎年開催しています。

平成24年度は8月の新潟地域を皮切りに、1月の柏崎地域まで6会場で開催しました。



教育の現場と企業の現場を最短距離にする

## 新潟工科大学産学交流会 【会員企業数228社】 (平成25年3月末現在)

- 新潟工科大学産学交流会は、県内外の企業によって構成された本学の支援組織です。
- 平成2年9月、新潟県内の製造業経営者を中心に「新潟工科大学設立同盟会」が設立され、本学開学の推進力となりました。開学後は、「新潟工科大学産学交流会」に組織変更し、職業実習(インターンシップ)、共同研究のほか、合同会社説明会、卒業生の就職においても本学を強力にバックアップしています。

会長 古泉 肇(亀田製菓株式会社 名誉顧問)  
副会長 有沢栄一(株式会社有沢製作所 特別顧問)  
副会長 佐藤 功(佐藤食品工業株式会社 代表取締役会長)

番外編

## テレビCM「自分みがき編」が優秀賞受賞

第54回新潟広告賞(主催:新潟広告協会)において、本学のテレビCM「自分みがき編」が、テレビCM部門で優秀賞を受賞しました。

「自分みがき編」は新潟県内のNSTとUXで放送され、本学サイトやYouTubeでもご覧いただけます。



編集・発行／新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719番地

発行日 平成25年4月1日

公式ホームページ <http://www.niit.ac.jp/>